

世界で唯一、客室を分譲する
レジデンス型豪華客船

自宅に居ながらにして世界を旅する
The Worldの
魅力

客船の客室を購入して、部屋のオーナーになることにより、マイ・ヨット感覚で船旅を楽しめる豪華客船——〈ザ・ワールド〉。こうした客室の分譲システムを採用している客船はこの船が世界で唯一。海の惑星といわれる地球を、自宅にいる気軽さで旅することができる船。〈ザ・ワールド〉の世界へ、ようこそ。

文=田久保雅己(本誌) 写真=ザ・ワールド
協力=インターナショナル・クルーズ・マーケティング
text by Masami Takubo, photos by The World, special thanks to International Cruise Marketing





広々としたアパートメントのリビング。インテリアのデザインや家具などはオーナーのライフスタイルに合わせて自由に選ぶことができる

我が家は豪華客船のゆったりとした客室

「客船の部屋に自分の荷物を置いておいたら、次に乗船する時に手軽に行けるのではないか」…というアイデアを思いついたことからこの船の歴史は始まった。

その夢を実現したのは、客船界のパイオニア的存在であるノルウェーのクルーズ会社、クロススタークルーズの二代目、クヌート・クロスター・ジュニアであった。

客室に私物を置いたまま下船して、次に乗船する時は同じ部屋で過ごす。それはまさしく客室のオーナーになるシステムの誕生であった。

世界初にして、現在でも世界唯一となる客室分譲型の豪華客船の運用システムはこのような経緯で始まった。

*

〈ザ・ワールド〉の全長は196m、全幅29.8m、総トン数43,118t、最大巡航速度18.5ノット。平均150-200人のレジデントとゲスト、280人の乗組員で運行されている。船籍はバハマ。客船としては中型の大きさ。2002年にノルウェー、リサの造船所で建造されて以来、14年間、部屋を購入した“世界”各地のレジデントを乗せて、“世界”の海を航海してきた。〈ザ・ワールド〉という名は、この船だからこそ命名できる船名なのである。

全体で12層の内、レジデンス用デッキは6層、レジデンス総数は165部屋。すべてが分譲用の客室となる。複数のベッドルームを持つレジデンスタイプとやや小ぶりのスタジオタイプの二つのタイプに大きく分類されている。



自分の部屋のダイニングレストランから取り寄せて食事やドリンクを楽しむこともできるし、レストランのシェフを呼んで部屋で調理してもらうことも可能



部屋の購入を検討している人は、ゲストとして試乗体験や港での内覧もできる

レジデンスタイプは最も多く104室あり、広さは102.8~301.23㎡。世界的に有名なデザイナーとデザイン事務所4組がデザインした美しいインテリアの部屋で2~3のベッドルームがあり、海一望のバルコニーも付いている。特筆すべきは6ベッドルームと6.5バスルーム、プライベートパーティにも対応した広々としたバルコニーを有する389.6㎡のペンthouse。大半の部屋にはキッチンも設置されているので、船内にあるデリカテッセン“Fredy's Deli”や寄港地の市場で調達した新鮮な食材を“自宅”で調理して料理を楽しむこともできる。

スタジオタイプはやや小ぶりの広さとなり、26.9~93.9㎡。スタジオ・アパートメントタイプとスタジオ・レジデンスタイプの2種類があり、スタジオ・アパートメントはやや大きめで1~2ベッドルームを備えている。スタジオ・レジデンスはいわゆる1ルームタイプだが、2名が使用可能なキングサイズベッド、浴槽付き大理石のバスルーム並びに、デスク、バーエリア、ミニ冷蔵庫が整備されたリビングがあり、普通の客船の上等クラスの部屋と比べても遜色のない豪華さだ。

ほとんどのタイプにバルコニーがあるので解放感は抜群。自宅に居ながらにして船旅を楽しむことになるので、中には一年中住んでいるオーナーもいる。船

内にはさまざまな公共施設があるが、部屋での生活時間も長期間に及ぶため、バルコニーの解放感は重要な要素となる。船旅を楽しむためにはバルコニーは必要不可欠ということだ。

もちろん既存のインテリアに飽き足らないオーナーは、自分の部屋なので好みのデザインにリメイクすることもできる。今回取材していくつかの部屋を拝見したが、それぞれ洗練された個性あふれるインテリアであった。

客室のオーナーは船のオーナーでもある

各部屋のオーナーの平均年齢はおおよそ55~65歳。アメリカ、オーストラリアを中心にヨーロッパ、カナダ、南アフリカ

などのオーナーがおり、日本人オーナーも数人いる。オーナーそれぞれが船内の自宅に住み、長期間一緒に船上生活を送ることになるのだが、取材時に夕食を共にしたカナダ人ご夫婦に、船上での暮らしぶりについて語っていただいた。「私たちは約130㎡の部屋に住んでいますが、今回は今日で乗船してから3カ月ぐらい経ちます。船内には6つのレストランがあって、さまざまな料理を楽しめます。たまにはデリカテッセンで食材を購入して調理もしますし、レストランのシェフにお願いして自分の部屋の中で調理してもらったり、さらにはルームサービスを頼んで友人を招いての食事会も開いたりします。

部屋を購入して約10年経ちますので友人もたくさんできました。我々は平均して8から11カ月船で過ごしています。オーナーの中には数名ですが、一年中船に住んでいる方もいます。友情はかなり早い段階で生まれ、同じ経験をシェアし、様々なパーティに参加し、お互いの助け合いを通して深い友情へと変わっていきます。

それと、他の客船にもあるように、この船も世界各地の寄港地に上陸して開催されるさまざまなタイプの旅行プログラムがあります。極地などを探検することもあるのですが、他のオーナーたちと一



photo by Masami Takubo

部屋のサイズによってバルコニーの広さはさまざまだが、目の前に広がる景色は世界中の海であり、無数の港であり、名所・旧跡でもある。部屋での食事のアレンジを頼み、海を眺めながら朝食をいただくこともできる



photo by Masami Takubo



photo by Masami Takubo



photo by Masami Takubo

すでに購入しているオーナーの部屋をいくつか撮影させていただいた。一緒に船上生活をするうちにオーナー同士が友達になり、お互いに部屋の行き来をするようになると、マイルームのリノベーションを図りたくなっていくそう。

緒にちょっぴりスリリングな体験をします。そうした印象的な場面で同じ体験を共にして、感動を分かち合いながらオーナー同士の絆が深まるのです。

ですから今滞在しているシンガポールなど大都市の寄港地に寄ると、各国からの交通の便がいいので下船する仲間もいますが、新しくここから乗船してくる友人オーナーたちもたくさんいて、彼らと再会できるので、それも楽しみのひとつとなっています。時には健康や家族の問題でコミュニティから去る仲間もいますが、ここで培われた友情はそのあとずっと続くのです」

*

部屋を購入すると、オーナーは〈ザ・ワールド〉を運航するThe World Resident Holdings,Ltd.の株主となるため、船のオーナーになるようなもの。オーナーの代表として選出される理事会は、さまざま

関係の調整を行えるようにしている。

オーナーになるためには一定の資産が必要で、部屋の購入金額や維持費も高額となるためオーナーの中には大きな企業の経営者であったり、各方面のスペシャリストがいる。そのようなオーナーと船会社の双方が協力し合い、相乗効果生まれ、より快適で財政面でも健全な船の運航が保たれているのである。

そして、船会社およびオーナー同士はお互いの名前やプロフィールは共有することができるが、他では一切公表されない。安全面に関しても完璧に構築されたシステムは、オーナーたちの〈ザ・ワールド〉に対する信頼の証でもある。

ワインの貯蔵数、16,000本

オーナーになると、年間に100カ所以上停泊する世界各地の寄港地のどこで乗下船してもよく、何日間滞在してもよい。前述の通り、一年中船に住んでいるオーナーもいる。もちろんオーナーの家族や友人などゲストも同様だ。

寄港地に入港する前にはその地域の歴史や文化、地理についてのレクチャーが船内で開催され、寄港地に到着すると普通の客船とは違い、探索する価値のある大都市(たとえばシドニー、東京、香港など)では平均で3日間は停泊する。上陸したその地の観光は専門のコンシェルジュがカスタムメイド。年に数回

photo by Masami Takubo



photo by Masami Takubo



客船の中に本格的なデリカテッセン(左)があるのは〈ザ・ワールド〉ならではの。寄港地で補給される新鮮な食材を仕入れることができる。自分のレジデンスのフルキッチン(右)で作る料理も船上生活の楽しみのひとつだ



世界各地の極地では、各方面の学者や探検に関する専門家が同行するツアーが開催される。カヤックやゾディアック(インフレーターボート)に乗り、大自然を実体験することができる



は南極大陸、パプアニューギニア、グリーンランド、メラネシア、マダガスカル、オホーツク海、ロス海、北西航路、北海など極地ツアーも開催している。厳選された経験豊かな専門家チームが同行し、人がほとんど踏み入らないような場所を冒険家気分で行くことができる。

長期間の船上生活を豊かに過ごすために、船内にはミシュランレベルの最高級フランス料理を楽しめるレストラン「Portraits」を始めとして、和食、中華、

タイ、インド料理などアジアテイストな創作料理を供する「East」、コンテンポラリーなアメリカンステーキハウスとシーフードを提供する「Marina」、素晴らしい景色を眺めながらイタリアンフレイバーの料理を堪能できる「Tides」などの六つのレストランがある。プールサイドのグリルで日光浴をしながらハンバーガーやアラカルトという気軽な場所もある。「Fredey's Deli」では香り豊かなコーヒーやサンドイッチ、サラダ、ペース

トリーや地元の食材を使ったローカルフードを楽しむこともできる。

これらの食事処はもちろんのこと、各部屋でもオーダーできるワインセラーには、25年以上経験を積んだソムリエチームが世界から厳選したワインがなんと16,000本もストックされているというから驚きだ。

その他レジャー施設として、世界80カ所の有名ゴルフコースが内蔵されているシュミレーションゴルフが楽しめる



〈ザ・ワールド〉のスターン(船尾)は、大きなデッキが電動でせり出すようになっており、桟橋付きのプライベートマリナーに変貌する。マリナーではアウトドアダイニングや、そこをベースにしたパドルカヤックやホビーキャット、レジャーボートなどのマリンスポーツを楽しむことができる



高級フレンチレストラン「Portraits」(左)。落ち着いた雰囲気の中で洗練されたフランス料理を堪能できる。このワインセラー(上)には3つの温度帯に分けられた1800本の赤、白、シャンパンのボトルが保管されている。The Worldのメインワインセラーには世界19カ国から厳選された1100銘柄のワインが16,000本貯蔵されている



メインプールは11デッキにあり、セカンドプールは5デッキの後方にある。12デッキ(スポーツデッキ)(写真前方上)には公式サイズのテニスコートやパターゴルフ場がある

クラブには、プロゴルファーが常駐しており、屋外のパッティンググリーンでも同様にレッスンを受けることができる。

本誌読者の皆様の特筆すべきは、「ザ・ワールド・ヨットクラブ」という看板を掲げた「Regatta Bar」というサロン。まるで欧米のヨットクラブのクラブハウスの中にあるサロンそのままなのだ。部屋の片隅にはバーカウンターがあり、サロンの壁面には世界の有名なヨットクラブのクラブ旗が飾られている。マガジンラックには「Yachting」や「SAIL」などヨット雑誌の最新号が置かれ、いつでも閲覧できるのである。オーナーの中には当然、プライベートでメガヨットを所有している人も何人かいるとのこと。また、今はボートを所有していないが、かつてボートオーナーだった人も多くいるという。

船尾は、カリブ海など美しい海の沖あいに停泊する時に、大きなデッキがせり出すようになっており、プライベートマリーナに様変わりしてカヤック、ゾディアックボート、レーザーボートなど、各種のウォータークラフトを利用したマリンスポーツを堪能できるのもうれしい。

船内には二つのプール、レギュラーサイズのテニスコートもあり、船内にはフィットネスセンターでトレーニングもできるし、ジャクジーやスチームバスを備えたスパでマッサージを受けるのもいい。もちろんメディカルセンターも備えているので、健康面のサポートも万全だ。

日本的に表現するならば“洋上に浮び、世界の海を巡る、動く高級コンドミニアム”と称することができる(「ザ・ワールド」)。その費用面での考察をしてみたい。レジデンスの大まかな価格は102.8㎡クラスが平均で、現状では1物件およそ4億円(部屋のサイズによって1.5億円〜)。それに運航費を含む年間の維持費が、部屋の広さに準じてかかる。

安心のオーナーシップ

実際にボートやヨットを購入後に転売するとなると、所有年数にもよるが、中古艇価格は1/3〜1/10、さらに安くなることも多いが、このレジデンスはこれまで値上がりし続けている。

また、「ザ・ワールド」には「ゲストステイプログラム」というものがあり、購入に興味があり、資産などの一定の基準を超えた方々に対して購入決定前に試乗できる機会を設けている。オーナーは自身が乗船しない区間は友人や家族、さ

らにはこの「ゲストステイプログラム」に部屋を提供することができる。

現オーナーの中にはかつてボートオーナーであった人が歳をとり、体力も落ち、クルー集めに苦労するよりも客室のオーナーになって、豪華客船のクルーサービスを受けながら世界を旅するようになったという人も多くいると聞いて合点がいった。

「ザ・ワールド」では、オーナーたちがクルーたちのためにさまざまな援助も行っているという。レストランにクルーたちを招いて、オーナーたちが配膳サービス係を務めるイベントなどはその一例で、クルーたちとオーナーたちの一体感が育まれるという。

乗船している人はすべて同等に、運命共同体となる。そのことを船会社、各部屋のオーナー、クルーたちがそれぞれの立場で理解し合いながら、世界の大海原を航海している「ザ・ワールド」は、“洋上のユートピア”でもあるようだ。



本格的なマッサージやエステ、理学療法を施すThe World Spaには、大きな浴槽のジャジー、サウナ室が備わっており、もちろんスポーツジムやヘアサロンといった日常生活に必要なものは全て配備されている

親子代々ノルウェーの船乗り ダグ・セヴィック船長

「ザ・ワールド」のダグ・セヴィック船長はノルウェー出身。祖父の時代から船乗りの家系で育ち、子供のころからスモールボートなど船に親しみ、船乗りになってからは海軍や貨物船で経験を積み、客船では船名(シーゴッデス)時代の(シードリーム)や(ウインドスター)、(ラディソン・セブンシーズ)などに乗船。「ザ・ワールド」には創業時からのキャプテンのひとりとして乗り組み、14年間従事しているベテラン船長だ。「この船の計画や予算について関われるのでとても楽しい」とのこと。お気に入りのディスティネーションは?の問いに、「南極がエキサイティングでファンタスティックだね」。プライベートでは冬はスキーを趣味とし、夏はマイボート、Fairline 42でボートを楽しむボートオーナーでもある。



photo by Masami Takubo



photo by Masami Takubo

photo by Masami Takubo

The World Yacht Clubの名前はRegatta Bar。(上)。併設されたサロン(左)の奥には、世界のヨット雑誌と有名なヨットクラブのクラブ旗。一流ヨットクラブの会員がくつろぐサロンそのものだ